上：1965年までに製造されたクルマ"GTツーリング65"と1975年までに製造されたクルマを対象した"GTツーリング75"の2クラスで争われた"鈴鹿クラシック2024チャレンジ"グループAの面々。〈ポルシェ〉、〈オースティン・ヒーレー〉、〈ロータス〉、〈アバルト〉、〈アルファ・ロメオ〉、など、メーカー名を聞くだけでも心躍る、クラシックカーファンも垂涎の名車がズラリと並んだ　中右：岡野晋介ドライバーが乗車する1963年製"ロータス エラン 26R Sr2"　中左：カーブ手前で後続に差をつける!?　1972製"ポルシェ 911"に乗車するのは〈ACCR〉チームの1人、細見寛ドライバー　右下：レース後にはシャンパンファイト！〈ACCR〉のスポンサーでもある〈フランク・ミュラー〉ペイントの"ポルシェ 930"を駆った河合寿也ドライバーが3位に入賞した。長年の間、〈ACCR〉でも走り続けているベテランメンバーだ

1962年に完成した日本初の本格的国際レーシングコース、鈴鹿サーキット。そのレース場とほぼ同年製の〈ポルシェ〉や〈ロータス・エラン〉が連なるスタート地点。一番手前は〈フランク・ミュラー〉塗装の1978年製"ポルシェ 930"

SUZUKA CLASSIC 2024 CHALLENGE

〈ACCR〉チームが"鈴鹿クラシック2024チャレンジ"に参戦!

憧れのクラシックカーがサーキットを激走!

2024年7月に開催された"鈴鹿クラシック2024チャレンジ"。日本のクラシックカーラリー界を牽引する〈ACCR〉代表が関わるヒストリックカー・サーキットレースとあって、当然、同チームも参戦。その活躍をレポートしつつ、かの"ル・マン クラシック"を目指す、キーマンへインタビュー!

構成&文＝池上隆太　composition&text：Ryuta Ikegami（AM5:00）

古きよきクルマでカーラリーを行う〈ACCR〉（アルペンクラシックカーラリー）。その代表、入川ひでとさんの仲間が主催する"鈴鹿クラシック2024チャレンジ"が開催され、〈ACCR〉チームも参戦。1960～'70年代の〈ポルシェ〉を中心にエントリーし、サーキットを駆け抜けた。入川さんはこのレースについて「かつて開催されていた、モータースポーツの歴史的価値を伝えるイベント"鈴鹿サウンド・オブ・エンジン"の流れを汲んだ新しいレース。日本でクラシックカーを持つ人たちの檜舞台として、走る機会を提供したい思いで開催しました」と語る。目指すのは、ヒストリックカーによるサーキットレースとして最も由緒がある"ル・マン クラシック"。

「1923年開始の"ル・マン24時間耐久レース"で走った、もしくは同車種のクラシックカーに限定して、2002年からパリで行われています。昨年、参加しましたが、アジアで参加しているのは日本人だけ。というのも、日本はヨーロッパとアメリカに次いでクルマ文化が深い国。サーキットレースも60年以上の歴史があります。だから、フランスのモータースポーツ界では、日本はクルマ文化をわかっている国としてリスペクトされています」

"鈴鹿クラシック2024チャレンジ"開催の意義は、そのベースがあってこそ。「GTワールドチャレンジ・アジアと併催され、海外選手もたくさん訪れました。彼らに日本でのクラシックカーレースを見せることで、日本のクルマ文化の奥深さを伝えることができたと思います。"ル・マン クラシック"のような価値を持つイベントに成長させ、遊び上手で教養も持ち合わせた本物のセレブたちが楽しめるレースにしたいですね。そういう大人に鈴鹿での観戦後、たとえば京都や奈良を観光してもらう。そんなモーターツーリズムのハブ的なレースにできればと」